

稲作だより

～第8号 水管理・中干し

浅水管理を継続し、茎数確保を！

6/19 現在の普及課の調査圃の生育は、葉数が昨年並みに進んでいますが、**茎数が今年の7割程度**になっています。

浅水管理を続け、分けつの発生を促進しましょう。

地域 品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
尾花沢市尾花沢 はえぬき	本年	31.4	230	7.0	39.2
	前年	28.4	157	6.5	32.7
	平年	29.1	312	7.1	36.2
	平年比	108	74	-0.1	3.0
村山市河島 つや姫	本年	38.3	231	6.7	41.6
	前年	31.0	159	5.8	37.6
	平年	32.0	364	7.0	39.9
	平年比	120	63	-0.3	1.7
東根市蟹沢 雪若丸	本年	32.3	342	8.0	49.0
	前年	26.9	311	7.1	42.9
	平年	27.1	446	7.6	45.8
	平年比	119	77	0.4	3.2

1. 茎数が少ない圃場がほとんどです。水管理で分けつ促進を！

今発生する分けつの多くは、やがて穂となる有効茎です。分けつが順調に発生するには25℃程度の水温が必要とされています。

- ①茎数不足 → **水深2～3cmの浅水管理**（夜間や早朝に水を入れ、水温を高める。）
- ②土壌の“ワキ”や葉色の低下 → すぐに落水(夜間)し、水を交換する。

2. 適期に中干しを行い、有効茎の割合を高めましょう！

目標茎数確保後は、8.5～9.0葉期(6月30日頃)までに中干しに入りましょう。適期・適量の穂肥が出来る稲姿となるよう、“**中干し**”を実施しましょう。

【中干しの効果】

- 土壌に酸素が補給され、イネの上根が伸長する。
- 窒素の吸収を抑制して、過剰な無効分けつの発生を抑える。
- 田面が締まり、秋のコンバイン収穫が効率的に行える。

【作溝の効果】

- 中干しの効果が高まり、水のかけ引きがより短時間で行えるようになる。

【中干しの目安】

- m²当り茎数が、「つや姫」では410本以上、「雪若丸」では560本以上、「はえぬき」では450本以上なら、速やかに中干しを開始する(別表参照)。

○中干しの程度は、田面に小ヒビが入り、歩ける(足跡が残る)程度とする。

【中干しの目安(本/株)】

中干しの目安の茎数 20～25 本/株はこれくらいです。

品種	栽植密度	
	坪70株植	坪60株植
つや姫	19本程度	22本程度
雪若丸	26本程度	29本程度
はえぬき	21本程度	24本程度



【中干し後の水管理】

○中干し後は、走り水とし、飽水管理(足跡に水が残る)程度とする。

○その後、徐々に間断かん水に切り替える。

※2湛2落(2日間湛水・2日間落水)または2湛3落とする。用水の状況や土壌タイプ(粘質土壌なら2湛3落)に合わせて行いましょう。

○大切な用水です。土地改良区等の情報を基に、適期・適正に灌水します。

3. いもち病、斑点米カメムシ類対策

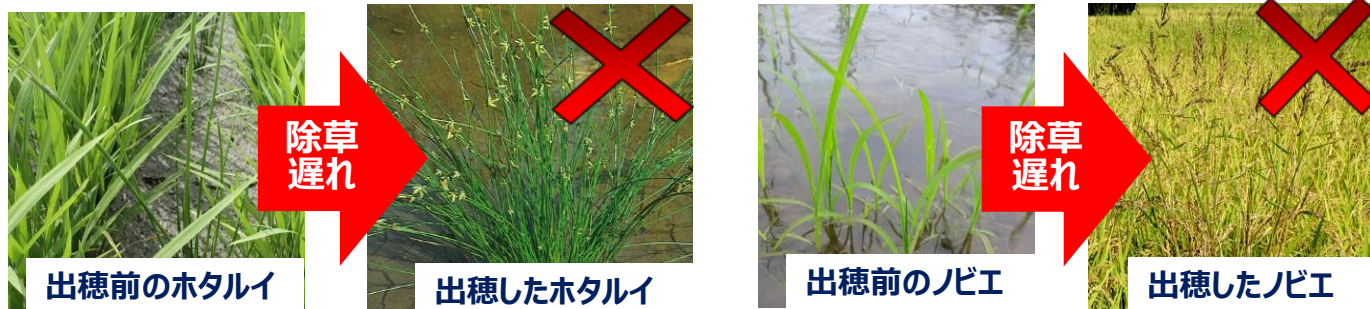
(1)梅雨は「いもち」の発生に注意！！

最低気温が20℃を超える日が続くと、“葉いもち”拡大の恐れがあります。

取置き苗では平年より早いいもち病が発生しています。感染が拡大する前に、直ちに処分しましょう。田を見回り、病斑を見つけたらすぐ防除を！！

(2)斑点米カメムシ類の発生量は「やや多い」！！

畦畔・農道等の継続的な草刈りで、カメムシの生息しにくい環境を整えましょう。特に穂のつくイネ科雑草は、カメムシのエサになります。穂をつける前に刈り取りましょう。カメムシは圃場内の出穂したノビエ類やホタルイで繁殖するので、出穂前に残草対策をしっかり行いましょう。



◎農作業安全を徹底しましょう！熱中症対策も忘れずに！！

水分、ミネラルを十分に補給。こまめに休憩をとりましょう